

令和6年度 茨城県立農業大学校評価表

重点目標 I 【 県総合計画等に沿った教育内容の充実 】

1 現状及び課題、並びに評価項目

現 状	課 題	評価項目（達成目標）
○農業振興に貢献する優れた農業者等を育成するため、県総合計画に沿って経営者マインドの醸成に向けた経営実践プロジェクト学習に取り組んでいる。農学科では、利益を確保するための価格設定や販売方法を検討するとともに、新たな販売先を模索している。また、園芸学科では対象品目を選定し、学生に消費者ニーズに沿った品種選定、栽培管理、販売といった一連の流れを経験させている。これらの取り組みにより、経営感覚を養っている。	○1年次学生は価格設定や販売、コストへの意識などが十分とはいえないため、教育を通じて経営者マインドを身に着けさせる。	経営者マインドの向上 経営者マインドの向上した学生割合 100%
○農業の現場では、農業所得の向上を目指してドローンや環境制御装置など ICT 技術の導入を推進していることから、学生に新技術等の知識を習得させるため、農機メーカー等と協力して専攻実習の時間に機械の実演会等を実施するカリキュラムを取り入れている。 ○就農・就職した際に GAP 分野でも即戦力となる人材や、将来的には GAP を取り入れた持続的かつ効率的な農場運営で儲かる農業を実現できる農業経営者の育成を目指して、ASIAGAP 基準に沿った教育を行っている。 ○SDGs や環境に対する関心が国内外で高まり、国において「みどりの食料システム戦略」が策定されるなど、農業において環境との調和や持続性の取り組みが求められる中、県では有機農業の推進に力を入れている。	○新技術や新たな取り組みに関する知識を習得するための教育をさらに充実させる。 ○GAP の継続認証による実践を伴った教育を続けていく。 ○県の施策の方向性を鑑み有機農業に関する教育を続けていく。	新技術や新たな取組に関する教育の充実 ICT 研修会開催 延べ13回以上 ASIAGAP の継続認証 4品目 有機農業実践経営体での実習 有機農業実践経営体での実習 3人

2 評価項目別の評価及び次年度の課題

(1) 経営者マインドの向上

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント [全般]	達成度の評価基準	
経営者マインドの向上した学生割合 100%				A	100%達成
				B	80~99%の達成
				C	60~79%の達成
				D	40~59%の達成
				E	39%以下の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
<p>ア【拡充】経営感覚を醸成する学習機会の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営実践プロジェクト学習により生産から、販売を考えた商品設計、営業、納品までの一連の事業活動を学生に体験させ、企画力販売力の向上をはかる。併せて学生自ら原価計算、価格設定を行い、売上を把握することコスト意識を醸成する。 特別講義 8回 【R5実績：9回】 対象品目 8品目以上 【R5実績：10品目】 新規販路拡大 2か所以上 【R5実績：2カ所】 効果測定アンケートの実施 1回 【R5実績：1回】 農業者等が運営している農場等の見学や経営状況を学び、経営理念や経営手法を学ぶ。 先進農業派遣実習の実施 80か所【R5実績：80か所】 先進経営体視察研修の実施 6か所【R5実績：26か所】 原則、全学生が取り組めるよう実施体制を整備する。 			

(2) 新技術や新たな取組に関するカリキュラムの充実

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント [全般]
ICT 研修会開催 延べ 13 回以上 ASIAGAP の継続認証 4 品目 有機農業実践経営体での実習 3 人			

達成度の評価基準	
A	100%達成
B	80～99%の達成
C	60～79%の達成
D	40～59%の達成
E	39%以下の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
<p>ア【継続】 ICT などの最新技術の習得機会の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新かつより有用な技術について学習させるため、関係機関や民間との協力による講義や実習を実施する。 4 月～2 月、延べ 13 回以上 【R5 実績：12 回】 ・ ICT 機器を実習圃場に導入しプロジェクト活動等による効果検証を通じて新技術への理解を深める <p>イ【継続】 GAP の実践による学習機会の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農学科・畜産学科においては、ASIAGAP [メロン、ネギ、ナシ、ブドウ] の農場運営を手本に、全体で GAP の概念を取り入れた実習を実施する。 認証継続 4 品目 【R5 実績：4 品目】 ・園芸学科においては、品目の選定など ASIAGAP 新規認証取得にむけ書類整備などの準備をすすめる。 認証取得に向けた取り組み品目 (抑制メロン) <p>ウ【拡充】 有機農業に関する学習機会の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境や持続性に配慮した農業について理解を深めるため、特別講義を開催する。1 回 ・土壌肥科学、農業機械学、植物病理昆虫学などの講義で有機農業に必要な栽培技術を学ぶ。 ・農林水産省の「みどりの食料システム戦略」学生チャレンジに取り組み、生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するための方策を学ぶ。 ・経営体の実態を学ぶためプレ農業人フェスタなどで県内大規模有機農業実践経営体への研修へ誘導する。 3 人 			